



観光地点検

奈良県立大学地域創造学部講師

岡本 健

地域×コンテンツ×コスプレ 異なる組み合わせで新規開拓

観光地として、あるターゲット層に訴求してしまうと、逆にそれ以外の層の興味がうせてしまうことがある。特に問題とされているのは若者層だ。「最近の若者は旅行をしなくなったのでは」という声もある。しかし、よく観察してみると若者と呼ばれる層も自身の興味・関心に基づいて消費行動を行っている。従来とはそのあり方が異なっているだけなのだ。現代社会には様々な趣味がある。休日の過ごし方も多様だ。こうした状況で、既存の観光地やイベントに新たな客層を呼ぶにはどうすれば良いだろうか。

なら燈花会と境界の彼方

伝統的な観光地である奈良公園一帯では、1999年から毎年8月に「なら燈花会（以下、燈花会）」というイベントが開かれている。約2万本のろうそくに火を灯し、奈良公園一帯に設置するもので、来場者数は10日間で90万人近くにもなる。奈良県内最大級のイベントだ。

この燈花会に、今年はアニメ『境界の彼方』とのコラボレーションイベント『燈花会の彼方』が登場した。アニメキャラクターの等身大パネルを設置、燈花会と『境界の彼方』とのコラボレーショ

ンマップを配布、コラボグッズを販売するものだ。『境界の彼方』は2013年秋に放送された京都アニメーション製作のアニメ作品で、その背景として、奈良市や橿原市などの風景が用いられた。

奈良アニメメディア祭

アニメとのコラボに至ったきっかけは奈良アニメメディア祭の開催だ。これは、記紀・万葉をテーマにしつつ、現代的な物語も含めて、奈良のメディア・コンテンツ・ツーリズムを実践するものだ。「奈良公園サマーコスプレフェスタ」と「記紀・万葉メディア・コンテンツ・ツーリズムシンポジウム」を開き、連携イベントとして「燈花会の彼方」を開催した。

奈良アニメメディア祭は、奈良ものがたり観光実行委員会が



「燈花会の彼方」でパネルを撮影する来場者

実施し、後援に奈良県、奈良市、奈良市観光協会、奈良県立大学、奈良県ビジターズビューローが、協力に奈良女子大学文学部文化メディア学コースがついた。この委員会は奈良県立大学協働サロンで14年1月22日に開かれた「奈良メディア・コンテンツツーリズム研究会」に集まったメンバーを中心に組織されている。研究会では、デザイン事務所アトリエアクアのフルタアキヒロ氏と筆者によるコンテンツツーリズムに関する講演の後、実務家、学者、学生がこれから何ができるかについて集まって議論し、アイディアを出し合った。

奈良には様々な文化資源がある。そこに、様々な「コンテンツ」を導入していくことにより、観光資源の新たな魅せ方の開発や新たな層の開拓ができるのではと、プロジェクトが動き始めた。

アニメが新たな関係を創造

奈良公園サマーコスプレフェスタは、燈花会会場でコスプレを許可するものだ。2日間の開催予定だったが台風の影響で初日は中止。2日目は開かれた。事前申込者80人のうち、実際の来場は40人だった。こうしたイベントは天候に左右されやすいが、半数が来場、熱心な参加者であることがわかる。コスプレイヤーにとっては、ろうそくに照らされた幻想的な情景を背景に撮影できる絶好の機会なのだ。

参加者向けにアンケート調査をしたところ27の回答が得られた。20代女性が多く、奈良、大阪、京都、滋賀からの参加者がほとんど。ただ、少数ながら千葉県や岐阜県からの来場もあった。注目すべきは「なら燈花会」へのこれまでの来訪回数だ。27人中16人が「初めて」と回答。コスプレフェスタによって、これまで燈花会に訪れていなかった層が訪れるようになっている。さらに、奈良県居住者(17人)のうち半数が「初めて」と回答しており、近隣からの参加者も増やしていることがわかる。

燈花会の彼方では、キャラクターの等身大パネルが置かれ、マップ配布、グッズ販売を行うことで作品ファンの来訪を促した。作品を知らずに燈花会を見に来た人々にとっても新鮮だったようで、外国人観光客を含めしきりにパネルの写真を撮影し

ていた。長年続いたイベントでの新たな試みは燈花会ファンの関心も引いた。奈良を舞台にしたアニメ作品の存在を地元住民に知らせるメディア的な機能を果たしたのだ。コンテンツ産業サイドか

らすると、コンテンツを地域に訴求させる最適な広報となるだろう。

さらに、8月12～14日には、作品の彼方の舞台となった奈良ホテルでホテルスタッフによる館内ガイドツアーが行われた。筆者も14日に参加したが100人を優に超える参加者がいた。参加者の幅は広くアニメ



奈良ホテル見学ツアーに集まった人々

のファンはもちろん、1909年に建造された辰野金吾氏設計のホテルをこの機会に見学しようとする人々も多数訪れた。

燈花会や奈良ホテルという元々ある資源とアニメ作品『境界の彼方』を掛け合わせることで、それぞれに対し興味がある人々を一つの場所に集わせ、各人の関心を広げているのだ。G

今後のポイント

2014年度の取り組みをまとめる意味も込めて9月28日に奈良女子大学で開催した記紀・万葉メディア・コンテンツ・ツーリズムシンポジウムでは、マンガ家の里中満智子氏の講演や、奈良女子大学、奈良県立大学の学生による奈良の情報を発信する試みの発表、そして、北海道大学の大学院生による奈良公園サマーコスプレフェスタについての調査報告が行われた。

その後、マンガ家や実践家、研究者をパネリストとしてトークセッションが行われた。

その中で、今後の課題として、コンテンツを含めた文化事業に、より多くの予算をつけていくことの重要性が共有された。さらに具体的な提案として、コンテンツを生み出す主体に対して奈良をコンテンツの背景として用いてもらいやすいように、奈良の風景や文化資源などを積極的に売り込んでいく組織の必要性が述べられた。

各地に資源はたくさんある。この資源をいかに魅せるか、現代の観光地に求められているのはこの部分だ。